

# 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 高蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語に関する事項」においては良好な状況にある。「書くこと」に課題が見られる。
	よくできた問題	目的に応じて本や文章全体を概観して効果的に読む問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題は、正答率が低かった。
算数	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均を上回っている。「数の計算」「量と測定」「図形」においては良好な状況にある。「数量関係」にやや課題がある。
	よくできた問題	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算する問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	棒グラフから数量を読み取り、何倍かを書く問題については、正答率が全国平均を下回っていた。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日あたり60分以上勉強している児童の割合は昨年度に比べて増加している。学校の宿題にもきちんと取り組んでいるが、自分で計画的に学習を行う習慣はまだ定着していない。</li> <li>・読書は好きという児童の割合が、全国平均より高くなっている。昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書館や、地域の図書館を利用する児童の割合も増えている。週に1回、全校で取り組んでいる読書タイムなどの活動が有効であったと考える。</li> <li>・学校のきまりを守っているという児童の割合は全国平均より高くなっており、規範意識は高いといえる。</li> <li>・将来の夢や希望をもっている児童の割合は、全国平均より高くなっている。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。</li> <li>・自分にはよいところがあると答えた児童の割合は若干減少しており、依然として自尊心が低い傾向にある。児童の成長を認め、適宜称賛するとともに、互いのよさを伝え合えるような場を設定していく必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・朝自習の時間を使って、水曜日の計算タイム、木曜日の読書タイム(読み聞かせ)、金曜日の音読タイムを全校一斉に実施する。
- ・「『わかる授業』づくり5つのポイント」を確実におさえた授業を繰り返し実践する。
- ・基礎的・基本的な学習の定着や、個に応じた指導の充実のために、放課後の時間(週1～2回)を利用して、定期的な補充学習の時間を設ける。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した自主学習を推進する。また、学年通信や学校通信を通じて学習時間、学習内容、学習方法などについて具体的に児童及び保護者の方へ啓発を行う。
- ・あいさつ運動や、なかよしデーなど縦割りグループを活用した活動に継続的に取り組むことで、自尊心が高まるようにする。